

第3章 基本理念及び基本方針

1. 基本理念

下水道中期ビジョンは、まちづくりに欠かせない生活排水処理施設を地域の特性に応じて整備し、本市の将来像の実現に貢献することを目指すものです。

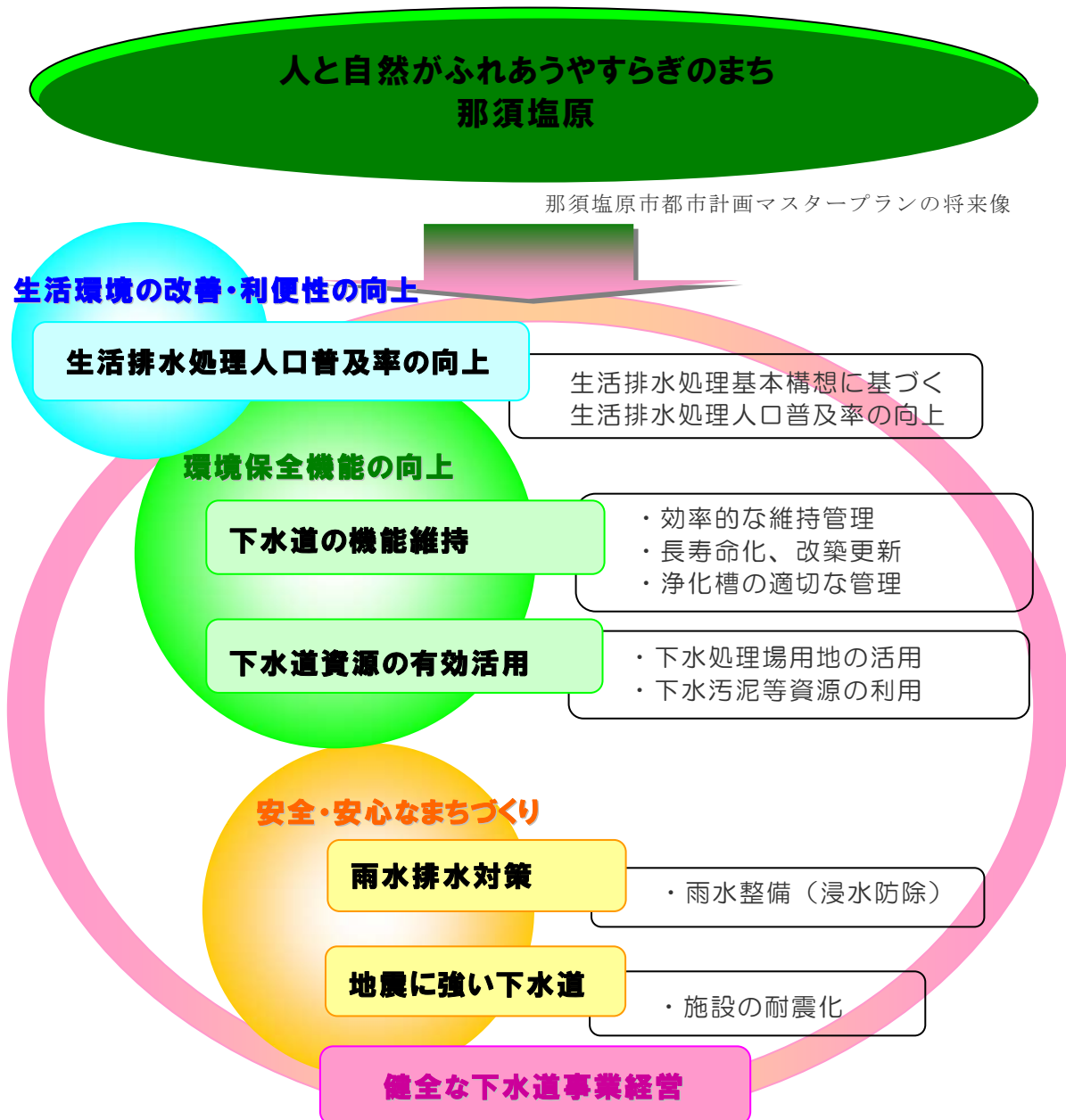
平成 21 年度末の生活排水処理人口普及率は 66.3%に達していますが、更なる「生活排水処理人口普及率の向上」が優先的な課題です。また、生活環境や水辺環境の改善を早期に達成するために、下水道をはじめとする生活排水処理施設の整備を促進していくためには、財政の負担も大きなものになります。

今後は、安全なまちづくりのための地震対策、雨水排除ならびに老朽化しつつある施設の改築・更新などによる施設の機能維持を継続的に推進するとともに、経営基盤の強化を図り、まちづくりと連携した事業を実施していきます。

下水道中期ビジョンでは、那須塩原市都市計画マスタープランの将来像である“人と自然がふれあうやすらぎのまち 那須塩原”の実現を目指すため、下水道の基本方針を定めるとともに、今後の施策を展開していきます。

2. 基本方針

下水道中期ビジョンでは、先の下水道の基本理念を踏まえ、
「生活環境の改善と利便性の向上」
「環境保全機能の向上」
「安全・安心なまちづくり」
「健全な下水道事業経営」
の4つを基本方針として掲げます。



用語 普及率、改築、更新、長寿命化

基本方針1

生活環境の改善 と利便性の向上

- 効率的な整備手法により

生活排水処理人口普及率の向上を早期に達成します

本市では、生活環境や水辺環境の改善を早期に達成するという観点から、平成21年度末で66.3%である生活排水処理人口普及率の向上が課題となっています。

「那須塩原市生活排水処理基本構想」および「公共下水道全体計画」の見直しにおいて、生活排水処理人口普及率向上のための整備手法を設定し、早期の普及率向上に努めます。

基本方針2
環境保全機能
の向上

● 計画的な施設管理により **下水道の機能を維持**します

膨大な下水道施設の計画的な維持管理を行うことにより、老朽化しつつある施設の改築更新時期を的確に把握し、施設の長寿命化や計画的な改築更新に努めて持続的な施設機能の確保に取り組んでいきます。

また、個人が設置する浄化槽の機能を維持し、良好な処理水質が得られるように、適切な管理に取り組んで頂くためのPRや指導を行います。

● **下水道資源の有効活用**により、地域に開かれた下水道の実現、循環型社会の構築に貢献します

下水道が有する資源には、処理水や有機物の塊である下水汚泥、熱、バイオマスエネルギー、処理場が有する空間などがあります。また、下水処理場の用地は、地域に隣接した貴重な空間としての利用が期待されます。

観光地の入口に立地する塩原水処理センターでは、観光や環境教育の拠点としての活用方法を検討していきます。

黒磯水処理センターと塩原水処理センターの処理水や下水汚泥についても、現在の利活用を進めるとともに、無駄なく利用して循環型社会の構築に貢献するため、新たな方策について検討していきます。

● 雨水排水対策を進め市民の生命と財産を守ります

浸水被害が発生している地区において雨水管渠の整備を行います。近年の降雨特性に対応した雨水管渠の整備を実施することにより、浸水被害を解消し、市民の生命と財産を守っていきます。

● 下水道施設の耐震化により地震に強い下水道
を構築します

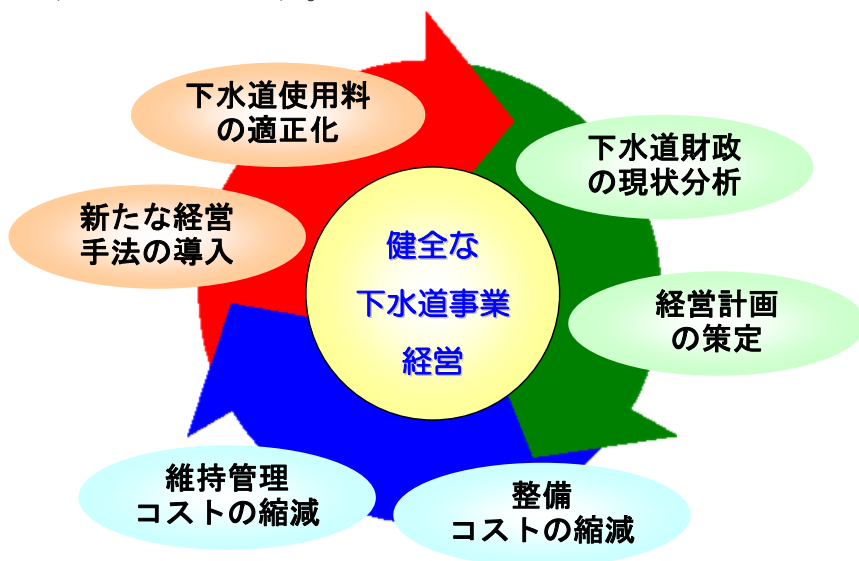
下水道管渠等の耐震化により大規模地震などの災害時においても機能維持が期待できますが、耐震化には膨大な費用が必要となります。このため、市民の意向を踏まえ、災害時のサービス水準を設定し、段階的に下水道施設の耐震化を推進していきます。

基本方針4
健全な
下水道事業経営

● 経営基盤の強化によりサービスを継続します

継続的な経営改善や効率的な経営手法を取り入れ、経費の削減や経営の合理化により、市民にサービスを提供していきます。

今後は、コスト削減策の推進に加え、下水道使用料の適正化に取り組んでいきます。



3. 那須塩原市公共下水道の将来計画

下水道中期ビジョンにおいては、まちづくりに欠かせない生活排水処理施設を地域の特性に応じて整備し、本市の将来像の実現に貢献することを目指し、さらなる「生活排水処理人口普及率の向上」を優先的な課題とします。

高齢化の本格化、市町村合併による行政区域の再編、依然として厳しい地方財政の状況、平成27年をピークに減少が見込まれる人口など、下水道を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。

こうした背景を踏まえ、本市では「那須塩原市生活排水処理基本構想」と「公共下水道全体計画」の見直しを行い、那須塩原市下水道の将来計画を以下のように設定しました。

(1) 生活排水処理 基本構想

市の貴重な財産である清らかな水を守っていくためには、水質汚濁の原因となるトイレや台所などの生活排水を適正に処理する、公共下水道、農業集落排水施設、浄化槽の生活排水処理施設の整備が必要となります。経済性や地域特性、市民のみなさまの意向を考慮し、より効率的な生活排水処理施設の整備を進めるために「那須塩原市生活排水処理基本構想」の見直しを行いました。

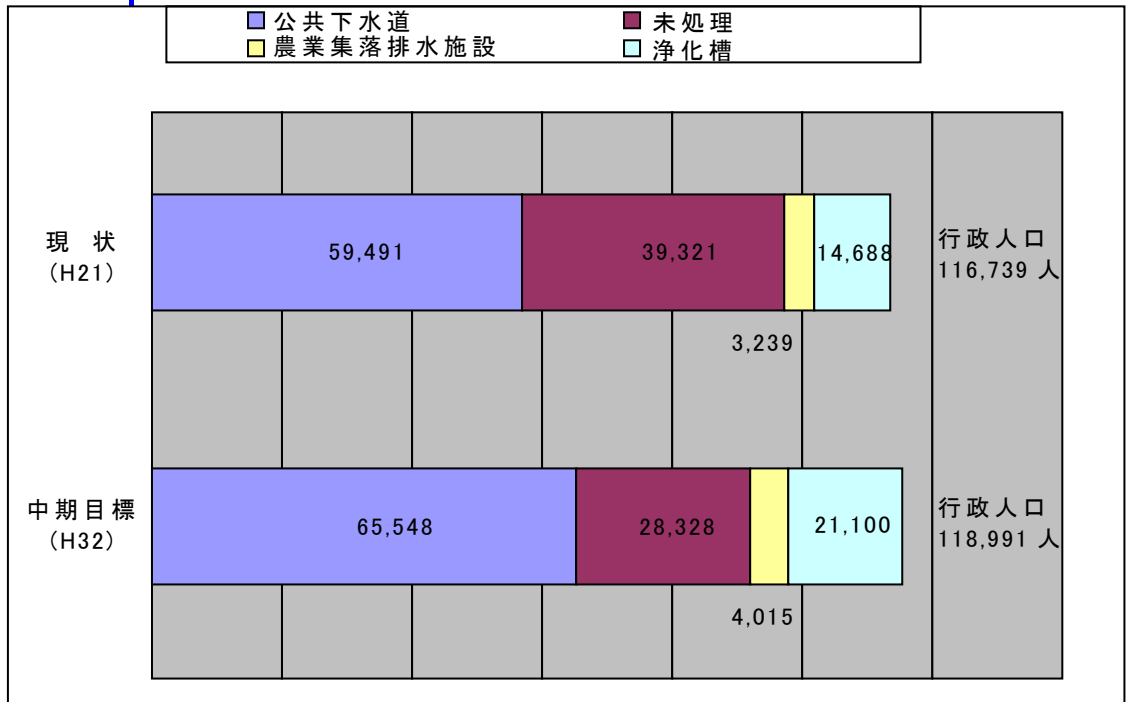
集合処理区域の設定は、以下の2項の条件を踏まえて検討しました。

- ① 下水道（集合処理）の整備は、「那須塩原市土地利用調整基本計画（案）H22.3」※¹で策定された土地利用誘導区域のうち、「市街地形成ゾーン」（用途地域）や「計画的誘導ゾーン」を優先的に進めます。
- ② 浄化槽については、「那須塩原市農業振興地域図」に基づき周辺が農用地域で囲まれている場合には、基本的に浄化槽で整備していきます。

※1：那須塩原市総合計画及び国土利用計画那須塩原市計画における将来像の実現に向けて、詳細な地域ごとの土地利用の方向性を明示するとともに、法令に基づく土地利用規制を補完する市独自の土地利用誘導方策のあり方について検討したものであり、今後、実効性のある土地利用誘導方策を検討する際の基本的な方向性を示すもの。

「那須塩原市生活排水処理基本構想」は栃木県が定める生活排水処理構想と整合を図り、平成32年度を中期目標として下記のように整備計画を策定しました。

「那須塩原市下水道中期ビジョン」では、「那須塩原市生活排水処理基本構想」の実現に向けて、平成32年度を目標とした取り組みを進めます。



生活排水処理施設整備計画人口の比較

(2) 公共下水道
全体計画

「那須塩原市生活排水処理基本構想」の結果を踏まえ、本市における「公共下水道全体計画」を以下のように決めました。

「那須塩原市下水道中期ビジョン」では、「公共下水道全体計画」の実現に向けて、平成37年度を目標とした取り組みを進めます。

那須塩原市公共下水道全体計画の概要

区分		旧黒磯市	旧西那須野町	旧塩原町	計
策定年次		平成22年度			
目標年次		平成37年度			
計画行政人口（人）		59,890	49,510	7,530	116,930
計画区域面積 (ha)	用途地域	1,262.1	701.0	208.7	2,171.8
	周辺	689.4	528.0	138.3	1,355.7
	計	1,951.5	1,229.0	347.0	3,527.5
計画人口 (人)	用途地域	38,060	21,720	3,580	63,360
	周辺	8,970	14,390	1,860	25,220
	計	47,030	36,110	5,440	88,580



■旧黒磯市マンホール蓋

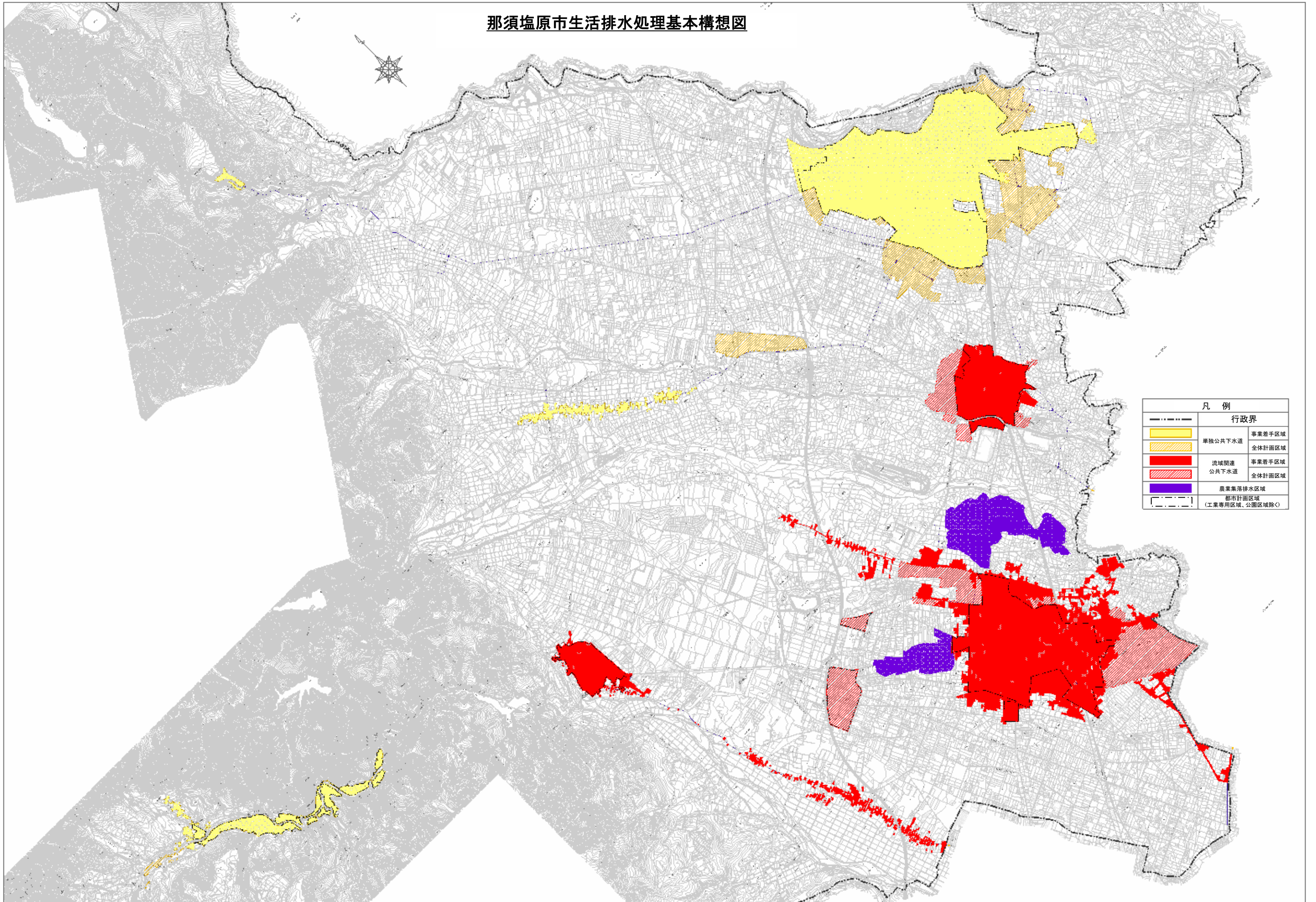


■旧西那須野町マンホール蓋



■旧塩原町マンホール蓋

那須塩原市生活排水処理基本構想図



凡 例	
--- --	行政界
■ (Yellow)	单独公共下水道
■ (Yellow with diagonal hatching)	流域関連
■ (Red)	公共下水道
■ (Red with diagonal hatching)	農業集落排水区域
■ (Blue)	都市計画区域 (工業専用区域、公園区域除く)
■ (Yellow)	事業着手区域
■ (Yellow with diagonal hatching)	全体計画区域
■ (Red)	事業着手区域
■ (Red with diagonal hatching)	全体計画区域

